往来物・絵双六展

ごあいさつ

このたび日本近世文学会春季大会が本学で開催されるにあたり、日本近世文学会と本学附属図書館との共催で、本学附属図書館所蔵の江戸時代の書籍や絵双六を展示することになりました。

本学附属図書館には十数種の特別コレクションが所蔵されていますが、近世文学に関連するものとしては、「望月文庫」(7,627 冊)、「日本近代教育史資料」(約 5,500 冊)、「双六コレクション-近世庶民教育資料」(191 点)があげられます。「望月文庫」は往来物や明治初年以来の初等教育の教科書等を集めたもので、1926 年に望月軍四郎氏らの厚意によって設置されました。また「日本近代教育史資料」は江戸時代から戦前までの往来物、双六、教科書などの教育史資料が集められています。「双六コレクション」は、文字通り江戸時代から明治期にかけて出版された絵双六のコレクションです。

今回の展示は、これらのコレクションに収められた往来物や絵双六の一端を紹介するもので、二つの会場で行っています。

まず第一会場(本館 1 階)では、往来物を中心とする書籍と絵双六を「百人一首の数々」「子どもの学びと遊び」「往来物の数々」「『小野篁歌字尽』の数々」といったテーマを設けて展示してみました。

また第二会場(本館 3 階)には、近世小説や演劇とも関わりのある絵双六を展示してあります。

今回の展示は会場が手狭なため、コレクションのほんの一部を御紹介するにとどまりました。御興味のおありの方は、コレクションの書籍や絵双六の画像を本学附属図書館ホームページで公開しておりますので、そちらも御覧いただければ幸いです。

本日は御来場まことにありがとうございました。

東京学芸大学附属図書館長

藤 井 健 志

日本近世文学会春季東京学芸大学大会会場校代表

嶋 中 道 則